



新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な大流行により、日常生活に様々な影響がもたらされました。その中で日本中の医療・介護・福祉・保健等の体制の脆弱性やあり方、課題を我々自身があらためて認識せざるを得ませんでした。高松協同病院におきましても、入院患者様や介護関係のサービス利用者の方々及びそのご家族、定期受診の外来患者様にも感染拡大を予防するために一定の制限を強いることとなりました。発熱などの患者様の対応にも苦心苦勞し、入り口での消毒や検温、問診など細心の注意を払いながら地域の皆様に医療・介護を提供できるよう職員一同日々奮闘しております。そういった現状の中でWHOが推進する健康増進拠点病院（HPH）として、多職種で協働しながら地域住民及び職員自身のいのちと健康を守り、地域住民全体のAOL及びQOLの向上を目指すヘルスプロモーション活動が今こそますます求められています。その一環として介護サービスが利用できずに自宅に閉じこもりがちになったり、来院できない患者様への電話等での声掛け運動も微力ながら続けています。困り事や心配事はまず高松協同病院になんでもご相談いただき、様々な対策や工夫が必要ですが個人の健康管理や地域の健康増進活動までも自粛することなく実践できるお手伝いができるよう我々も頑張っていく決意です。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



院長 北原孝夫

新年おめでとうございます。昨年は世の中がコロナウィルス一色に染まってしまいました。

本院が主として扱う脳疾患患者や整形疾患患者はウィルス対策で防げるものではないため、比較的影響も少なく患者様を受け入れることができいております。これも関係施設の皆様のおかげと感謝しております。院内感染に関しては、入院患者様にも大変なご迷惑をおかけしてしまうため、現場では細心の注意を払っていますが、これが患者様にも職員にもストレスとなってしまうかと心配しているところです。特に、高齢の患者様が多い当院では、スタッフと患者様、そして患者様の家族やお見舞いの方（現在一般のお見舞いをお断りさせていただいており、家族付き添いも原則1名のみ）とのコミュニケーションやイベントがどうしても減少せざるを得ない状況になり、認知が進んだり、リハビリへの意欲が減少したりするという困った事態も想定されています。職員においても、会議や研修がインターネットを使ったリモート会議が多くなりました。医療ではオンライン診療が認められるなど、技術的には知っていたものの遠い存在かと思っていたものが、思いもなかった速度で急激に普及しました。新しい技術を何かりハビリテーションに利用できないか模索中です。困難な中ですが、関係施設の皆様と協力し合い、地域に根ざしたより良いリハビリテーションを提供したいと思っております。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。



副院長 植木昭彦

あけましておめでとうございます。そして初めまして。10月1日から高松協同病院事務長となりました宮西剛司（ミヤニシツヨシ）と申します。9月末までは普通寺診療所で、2015年まではへいわこどもクリニックで事務長をしておりました。小規模事業所ばかりの経歴の中、初めての病院管理ということで、あたふたしているのが現状（11/26現在）です。こちらに来て驚いたのが、院内の生花や院外の花壇の整備など多くのボランティアさんの活動に支えられていたことです。高松協同病院が地域の皆様に愛されていることを実感いたしました。まだまだ分からないことが多く、皆様に多大なご迷惑をおかけしていますが、はやく地域の皆さま、職員の皆さまのお役に立てるよう頑張っていきますので、（できるだけ）長い目で見守っていただければ幸いです。よろしくお願ひ致します。



事務長 宮西剛司

第27回 看護介護活動研究交流集会

10月23日、サンメッセにて香川医療生協の全院所参加による看護介護活動研究交流集会が開催されました。毎年、1年間の活動報告や症例発表を行い、普段はあまり見る機会の無い他院所の活動を知り、お互いのレベルアップを図ります。今年はコロナウイルス対策で開催時間も参加人数も約半分に制限しての開催となり、半日で52人の参加となりました。発表は11件、東ブロックからは3件の発表を行いました。

東ブロック研究内容は…

1 例目 東病棟

「なんとかなるわ」を「できる」に導く在宅支援

2 例目 デイサービス協同

引きこもりからの脱却 ～笑顔で過ごせるために～

3 例目 外来看護

職員の喫煙者にアプローチして、禁煙外来を盛り上げよう！ ～1つ先のステージを目指して～



27年間毎年継続開催していた看護介護活動交流集会が、コロナの影響で縮小されましたが、今年も開催でき学ぶことができよかったです。

これからもコロナの影響は続くと思われます。感染対策を取りながら、できないではなく、するためには何ができるのかを考えながら職員の学びとやりがいにつなげられるよう頑張りたいと思います。嬉しいことにデイサービス協同の事例研究が全症例のうち1位を獲得しました。



オンラインビンゴ大会

高松協同病院では新型コロナウイルス対策として、県外への旅行や同僚での飲酒や飲食に関しても一定の基準を設け、感染を防ぐ努力を続けています。毎年恒例の忘年会も早々と中止が決まっていました。患者様や地域の皆様の活気だけでなく職員同士の活気も減ってしまいがちです。特に今年入所した新人さんたちは恒例の盛大な歓迎会も残念ながら中止になっています。

そういう沈みがちな雰囲気をなんとかしようと、高松協同病院の「FISH」委員会（FISH哲学に基づき「遊ぶ」「楽しませる」「注意を向ける」「態度を選ぶ」マインドを広げ実践する委員会）の若者を中心に忘年会に替わるイベントとしてオンラインビンゴ大会を企画しました。これなら家からスマホで参加でき、お子さんもいっしょに参加しやすいです。遠隔会議のZoomの主催経験はありませんでしたが、彼らは独自で勉強し、（許可を取って）法人IDの取得や機材の確保をし、回線などの状況を検討の結果、会場では同時に2台のPCを使って中継することを計画しました。

11月20日金曜日、19時開始でオンラインビンゴ大会が開催されました。当日は約50名の職員がオンライン参加してくれました。主催会場でも飲食は無し、密にならないよう広い会議室で行い、司会や会場スタッフが絶妙なトークや身振りで進行をしてくれました。画質を考慮し、当たりの数字を出すのにガラポンではなくPCの表示を使いわかりやすくしたり、結果表示を白板に太い文字で書いたり見えやすさにも注意しました。通信障害もなく、無事に盛り上がりながらビンゴ大会を進めることができました。今年の新人さんには教育の感想などを発表してもらいながら、会場にてビンゴを楽しんでもらいました。今回は楽しむだけでなく、主催者は遠隔会議という新しい技術や司会運営の注意点、準備の手順など、そして参加者は意外に遠隔会議は手軽で便利だということ遊びの中で自然に習得できたと思います。これからもコロナウイルスに負けないように明るくFish哲学を実践していけたらと思いました。

